

6月定例会報告 市長総括説明から

6月2日、平成29年第3回市議会定例会が開会しました。

最初に、全国市議会議長会から表彰を受けられた議員にお祝いを述べ、第4期市政の所信を述べました。続いて、
①国勢調査等分析結果②インドネシアで開催されるセミナーへ職員を派遣することへ報告した後、当面する市政の諸課題ならびに提出議案の主なものを説明しました。その概要をお知らせします。

■安全に安心して暮らせるまち

○平成29年度

国民健康保険事業

豊岡市国民健康保険運営協議会から「平成29年度豊岡市国民健康保険事業運営の基本方針について」答申を受けました。この答申の趣旨を尊重し、豊岡市国民健康保険税条例の一部改正案を今議会に提出しています。

今年度の医療費は、過去5

年間の推移を勘案し、昨年度実績と比較して4・4%の増を見込んでいます。

国保税額の算定に当たっては、前年度繰越金見込額の2分の1相当額の1億5千万円と国民健康保険財政調整基金から1億円を充て、被保険者1人当たりの税額(基礎課税分、後期高齢者支援金分、介護分)は、対前年度比2・6%増の11万2544円です。

○老人医療費助成事業の廃止

高齢期移行助成事業の創設

老人医療費助成事業は、65歳以上69歳以下の人を対象に県の補助事業として実施しています。県では、今年6月末で老人医療費助成事業を廃止し、7月1日から高齢期移行助成事業を創設します。これに伴い、本市も同様の見直しを行うものです。

高齢期移行助成事業は、65歳以上69歳以下の人で、本人を含む世帯全員に所得がない人と、一定の所得以下で身体的理由などから日常生活動作が自立できない要介護2以上の人を特別な配慮が必要な人として、医療費の自己負担の一部を助成するものです。

なお、平成29年6月末時点で老人医療費助成事業の対象者は、70歳になるまで引き続き助成を受けることができる経過措置を設けています。

■人と自然が共生するまち

○クリーンパーク北但の

運営状況

昨年度のごみ搬入実績は、本市が2万8996トン(平成24年度一般廃棄物処理計画の予測数値の1・0%減)、香美町が5646トン(同11・1%減)、新温泉町が4464トン(同17・4%減)でした。運営負担金の総額は4億43万円。本市の負担割合は約70・3%で、2億8154万4千円を予算計上しています。売電量は7420メガワットアワー。売電額は1億1340万9千円で、計画額1億円に対し1340万9千円の増となりました。

本市が今年2月から3月に行った水銀製品の拠点回収は、水銀製の体温計が619本、温度計が64本、血圧計が113本で、合計796本の回収をすることができました。

■持続可能な「力」を

高めるまち

○外国人観光客の動向

昨年の本市内に宿泊した外国人の延べ人数は、4万4648人(前年比約1・3倍)。今年1月から3月の第1四半期は、1万2356人(前年比1・17倍)で、引き続き順調に増加しています。今後も、引き続き城崎温泉を核に、欧米豪の個人旅行者をメインターゲットとした取組みを着実に進めます。

また、シンガポールを対象としたビジット・ジャパン地方連携事業をはじめ、神鍋高原の雪不足対策の一環として実施しているタイや台湾を対象としたインバウンド事業についても継続します。

○インバウンド受入体制整備

にかかるとの調査

2020年の外国人宿泊者数10万人泊の達成を目指し、インバウンド受入体制の整備に向けた調査を行いました。その中で、①集客における口コミのインパクトが強いこと②外国人向けに観光地化され過ぎていないところが好まれる要求は強く③英語力に対する要求は強く④城崎温泉以外の観光地情報および

案内サインが不十分であることなどが分かりました。

今後、この結果を受け、良質な口コミの発信を促すとともに、必要な案内サインの整備を検討します。

○コウノトリ育むお米の

海外販路拡大

コウノトリ育むお米の海外販路は、シンガポール、米国(ニューヨーク)に続き、5月末から新たに香港への輸出が始まりました。

日本からの米輸出量の多い香港は重要なマーケットであるため、今夏、JAたじまと共に香港を訪問し、定番販売と販路拡大のためのプロモーションを行います。

○北近畿豊岡自動車道の

整備促進

今年、待望の北近畿豊岡自動車道「八鹿日高道路」が暫定2車線で開通しました。現在は「日高豊岡南道路」全長6・1kmおよび「豊岡道路」全長2kmが事業化され、早期完成を目指して鋭意事業が進められています。国では、今年度「八鹿日高道路」のインターチェンジ周辺工事などに32億円、「日高豊

岡南道路」に104億円、「豊岡道路」に9億円の事業費が予算計上され、整備に向け事業が大きく前進します。

市としても、引き続き早期の全線開通に向けて、国と連携を図りながら事業促進に取り組みます。

○日高神鍋高原IC

プロモーション

北近畿豊岡自動車道「八鹿日高道路」が開通し、日高神鍋高原インターチェンジが設置されました。今後、京阪神などからの観光客のさらなる増加が期待されます。

昨年度実施した動態調査で、観光客一人当たりが立ち寄った地域のは、平均1・52地域であることが分かりました。市内周遊する観光客が少ないため、アクティビティやイベント、食などの本市の魅力を一元的に発信し、市内全域での滞留時間を伸ばすプロモーションを実施します。

○豊岡市除雪機緊急整備事業

補助金制度

今年の大雪を受け、平成24年度から27年度まで実施していた除雪機の購入経費の一部を補助する制度の復活を検討

するため、各区へアンケートを行い、32区が購入または購入を検討する意向を持つていることが分かりました。

ついでに、今年度から平成31年度までの3年間、制度を復活させることとし、今議会に關係する補正予算を提出しています。

○ターゲット70

昨年度の但馬空港の利用者数は3万660人。開港以来初めて3万人を突破しました。また、東京乗継利用者数も4年連続で1万人を超えました。今年度も、地域活性化・大交流の実現に必要な不可欠な東京直行便の実現に向けて、東京乗継ぎに重心を置いた取り組みを、航空会社と協働で実施します。

■未来を拓く人を育むまち

○子どもたちが豊岡で世界と出会う音楽祭「おんぶの祭典 開催

6月27日から7月2日まで「世界から豊岡に本物の響きと感動を子どもたちへ」をテーマに、第4回の音楽祭を開催します。この音楽祭は、市内関係者で組織する実行委員会で運営

し、開催に係る財源の一部は、個人や団体から寄付をいただいています。現在の寄付は、延べ124件、3203万円です。子どもたちが豊岡で世界と出会い、本物の音楽の響きにより感動し、また多くの市民が音楽を身近に楽しめるよう、より一層努めます。

■人生を楽しむ

お互いを支え合うまち

○相田みつを企画展の中止
東京国際フォーラム施設内の相田みつを美術館が行う「相田みつを植村直己コラボ企画展」の計画を進めてきましたが、都合により中止することになりました。

今議会に企画展中止に係る減額の補正予算を提出しています。今後、植村直己顕彰にかかる調整については、これまで以上に慎重に対応します。

○増浦行仁写真展の実施

増浦行仁さんは、フランス国立図書館「世界の100人」に選ばれるなど、世界で認められた写真家です。市内企業の紹介で対談した際、本市の取組みに共感され、写真展の話をいただきました。写真展は、市と実行委員会

が主催し、子どもたちをはじめ多くの市民に、豊岡に居ながらにして世界とつながることができる機会を提供します。今議会に事業の実施に必要な補正予算を提出しています。

○東京2020オリンピック

・パラリンピック競技大会に向けた取り組み
ボート競技は、フランスの事前合宿の誘致活動を行っています。9月24日から米国(フロリダ)で開催される世界選手権でフランスチームのコーチから会いたいとの誘いを受けました。強化合宿の受入れも含め積極的な誘致活動を行いたいと考えています。

また、4月12日から19日間、城崎ボートセンターで行われた日本ボートチームの強化合宿で、関係者からトレーニング環境などの高い評価を受けため、日本ボートチームの強化・事前合宿の誘致も併せて進めます。

また、モンゴルのホストタウンの取組みの一環として、公益財団法人日本野球連盟からの協力要請で、10月にモンゴル少年野球チームとNOMOベースボールクラブ、

地元少年野球チームとの交流試合などを行います。

《市政の運営》

○基本構想

5月8日、豊岡市基本構想審議会から次期豊岡市基本構想の答申を受けました。5月23日から6月9日まで市内6会場で、市民まちづくり懇談会などを開催し、6月12日まで、パブリックコメントを実施します。

これらの意見を踏まえて基本構想の成案を取りまとめ、今議会に追加議案として提出します。

○長期財政見直し

長期財政見直しは、平成27年度決算額を基本に、一般財源ベースで平成41年度までの15年間を見通しています。

昨年度の見直しでは、15年間の収支の総額は約47億円の赤字でしたが、今年度は約50億円の赤字になる見直しです。

本市の財政は、地方交付税が収入の最大の費目であり、その動向に大きく影響を受けます。引き続き国の動向を注視するとともに、さらに経費節減などに向けた検討を進めます。